



平成22年4月21日（水）
利根川水系渇水対策連絡協議会
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

平成22年度
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会
（春季定例会）の開催結果について

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会（春季定例会）開催される
今後の対策等について確認

- 開催状況 日時：平成22年4月21日（水）10:00～11:00
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 14階災害対策本部室
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダムの貯水状況 利根川上流8ダムでは平年を上回る貯水量（平年比127%）
鬼怒川上流3ダムでは平年を上回る貯水量（平年比103%）
 - ・積雪の状況 奈良俣ダム地点の積雪深は、平年を上回る42cm
（平年比111%）
尾瀬沼地点の積雪深は、平年を下回る171cm（平年比90%）
 - ・今後の見通し 今後、融雪による流況改善が長く続かないことも考えられます。
また、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨
状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想
定されます。
- 今後の対策（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
 - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問い合わせ先

国土交通省	住所	〒330-9724
関東地方整備局	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	
河川部水政課	さいたま新都心合同庁舎2号館	
水政調整官 小黒 晃彦（内線）3515	電話（代 表）	048-601-3151
水政課長 渡邊 猛雄（内線）3551	（水政課夜間直通）	048-600-1334
建設専門官 杉原 郁夫（内線）3557	（河川環境課夜間直通）	048-600-1336
河川部河川環境課		
河川環境課長 高橋 克和（内線）3651		
建設専門官 吉川 宏治（内線）3652		

平成22年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会)の開催結果について(概要)

1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの4月20日時点の貯水量は、表のとおりであり、利根川上流8ダム、鬼怒川上流3ダムともに平年を上回る状況です。

	貯水量(貯水率)	平年比	備 考
利根川上流8ダム (4月20日0時)	4億3,407万 ³ m ³ (94%)	127%	平年を上回る (H4~H21平均)
鬼怒川上流3ダム (4月20日0時)	1億6,364万 ³ m ³ (91%)	103%	平年を上回る (S60~H21平均)

今冬の利根川上流域の積雪状況は表のとおりです。

	積雪深 (平年比)	累加降雪量	備 考
奈良俣ダム地点 (4月20日9時)	42cm (111%)	1,154cm	積雪深は平年を上回る (H3~H21の4月第4半旬末平均)
尾瀬沼地点 (4月20日9時)	171cm (90%)	欠測	積雪深は平年を下回る (S29~H21の4月第4半旬末平均値)

平成22年1月から3月までの降水量は表のとおりです。

	累加降水量	平年比	備 考
利根川栗橋上流域 (1月から3月)	220mm	約141%	平年を上回る (S23~H21平均)
鬼怒川佐貫上流域 (1月から3月)	167mm	約95%	平年を下回る (S47~H21平均)

利根川上流5ダム(矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、藺原)は、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では、5月の中旬にほぼ満水となります。今年は2月下旬からの暖冬の影響により6ダム(5ダム+草木)では4月16日に満水になりましたが、今後融雪による流況改善が長く続かないことも考えられます。

また、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

2. 今後の対策

①今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や融雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

②利根川渇水対策連絡協議会としては、首都圏の水需要にかんがみ、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行っていきます。

※ ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

・利根川上流8ダム	電話番号	027-255-5692
・鬼怒川上流3ダム	五十里ダム 電話番号	0288-78-0440
	川治ダム 電話番号	0288-78-0908
	川俣ダム 電話番号	0288-96-0288
・二瀬ダム	電話番号	0494-55-0116

※ ホームページでもダムの情報をお届けしています。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000010.html> (首都圏の水資源情報 他)

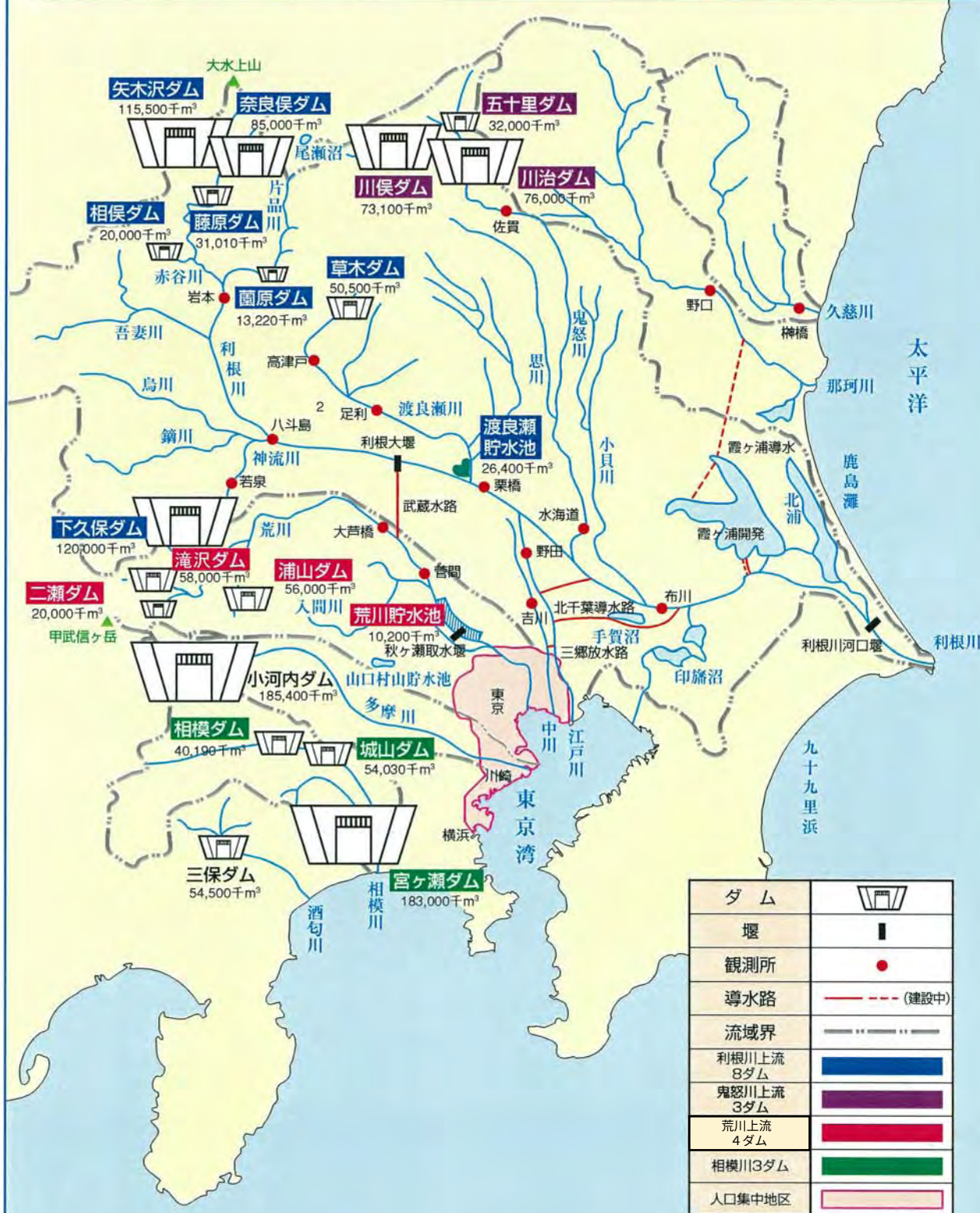
利根川水系渇水対策連絡協議会委員

会 長	国土交通省関東地方整備局長
委 員	国土交通省関東地方整備局副局長
"	国土交通省関東地方整備局河川部長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部長
"	農林水産省関東農政局農村計画部長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部長
"	" 建設局河川部長
"	" 水道局総務部長
"	千葉県総合企画部長
"	" 県土整備部長
"	埼玉県企画財政部長
"	" 県土整備部長
"	茨城県企画部長
"	" 土木部長
"	群馬県企画部長
"	" 県土整備部長
"	栃木県県土整備部長
"	独立行政法人水資源機構理事（管理担当）
"	" 管理事業部長

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事

幹事長	国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理官
幹 事	国土交通省関東地方整備局河川部河川情報管理官
"	国土交通省関東地方整備局河川部水政課長
"	" " 河川計画課長
"	" " 河川環境課長
"	" " 河川管理課長
"	経済産業省関東経済産業局地域経済部地域経済課産業立地室長
"	農林水産省関東農政局農村計画部農村振興課長
"	国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長
"	" 利根川下流河川事務所長
"	" 江戸川河川事務所長
"	" 霞ヶ浦河川事務所長
"	" 渡良瀬川河川事務所長
"	" 下館河川事務所長
"	" 高崎河川国道事務所長
"	" 利根川ダム統合管理事務所長
"	" 鬼怒川ダム統合管理事務所長
"	" 荒川上流河川事務所長
"	" 京浜河川事務所長
"	東京都都市整備局都市づくり政策部副参事（水資源・建設副産物担当）
"	" 建設局河川部計画課長
"	" 水道局総務部施設計画課長
"	千葉県総合企画部水政課長
"	" 県土整備部河川環境課長
"	埼玉県企画財政部土地水政策課長
"	" 県土整備部水辺再生課長
"	茨城県企画部水・土地計画課長
"	" 土木部河川課長
"	群馬県企画部土地・水対策室長
"	" 県土整備部河川課長
"	栃木県県土整備部砂防水資源課長
"	独立行政法人水資源機構管理事業部管理企画課長
"	" 利根導水総合事業所長

関東地方の主要な河川と水資源開発施設



利根川上流ダム群等の現況と今後の対策（案）について



下久保ダム(平成22年4月15日撮影)

平成22年4月21日

関東地方整備局

1. 利根川上流ダム群等の現況

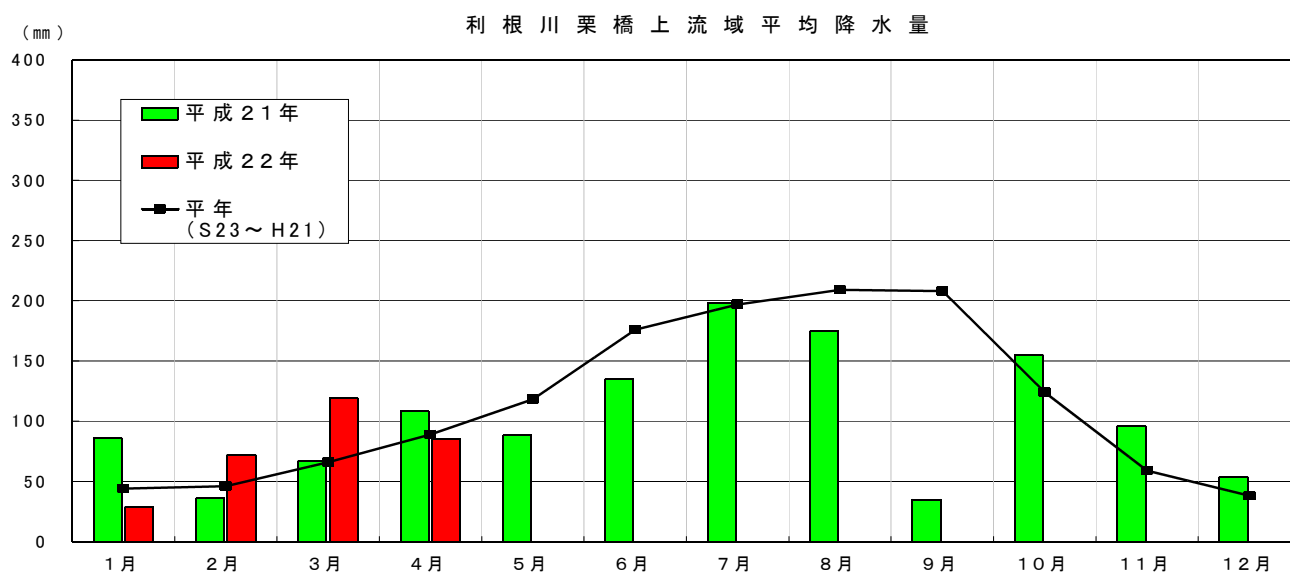
1) 利根川水系

(1) 降水量

平成21年の利根川栗橋上流域の降水量は、1月下旬の降雨により月間降水量が86mm（平年43mm）と統計期間（S23～H20）で2番目に多い降水量となりましたが、9月は月降水量が35mm（平年208mm）と統計期間で最も少ない降水量となりました。年間平均は1,233mmで平年より少ない降水量となりました。

平成22年は、1月は平年を下回りましたが、2月、3月は平年を大きく上回り、3月については月間降水量が119mm（平年66mm）と統計期間で2番目に多い降水量となりました。1月から3月の累加降水量は220mm（平年1月～3月までの累加156mm）と平年の約141%となっています。4月の月降水量は、19日までで85mmとなっています。（図－1、表－1参照）

図－1



表－1 利根川栗橋上流域平均降水量

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	〃
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成21年	86	36	67	108	88	135	198	175	35	155	96	54	1,233	
平年 (S23-H21)	44	46	66	89	118	176	197	209	208	124	59	38	1,374	
平成22年	29	72	119	85									305	
平年比 (%)	66	157	180	96									22	

平成22年4月19日まで

※. 利根川取水制限実施月（一時緩和含む）

※. 栗橋上流域面積 8,588km²

(2) 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

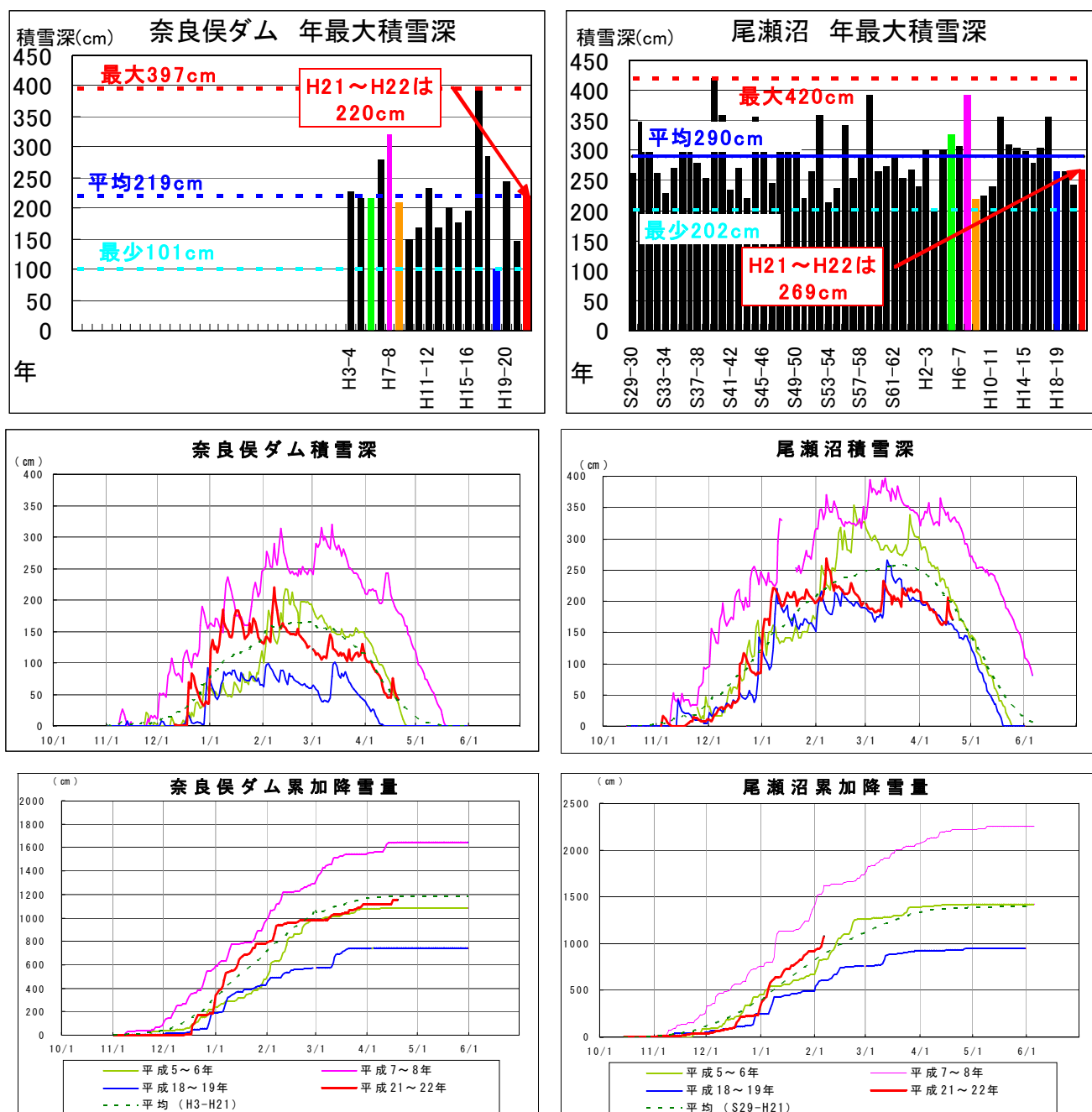
利根川上流域の降雪状況は、奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点において1月中は平年を上回る積雪深であったものの、それ以降においては平年を下回っています。今期の最大積雪深は奈良俣ダム地点で平年並みの220cm、尾瀬沼地点で269cmと平年より少ない状況となっております。

平成22年4月20日9時現在の奈良俣ダム地点の積雪深は42cm（平年の111%）、尾瀬沼地点では171cm（平年の90%）となっております。（表－2、図－2参照）

表－2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図

観測所名	時 点	日降雪量	積雪深	今期最大積雪	累加降雪量
奈良俣 ダム地点	平成22年4月20日9時現在	0cm	42cm	220cm(2月7日)	1,154cm
	H 3～H21の4月第4半旬末平均値		38cm		1,175cm
尾瀬沼 地点	平成22年4月20日9時現在	0cm	171cm	269cm(2月7日)	欠測
	S29～H21の4月第4半旬末平均値		191cm		1,377cm

図－2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図



平成22年4月20日9時現在 ※過去のデータは半旬末の値

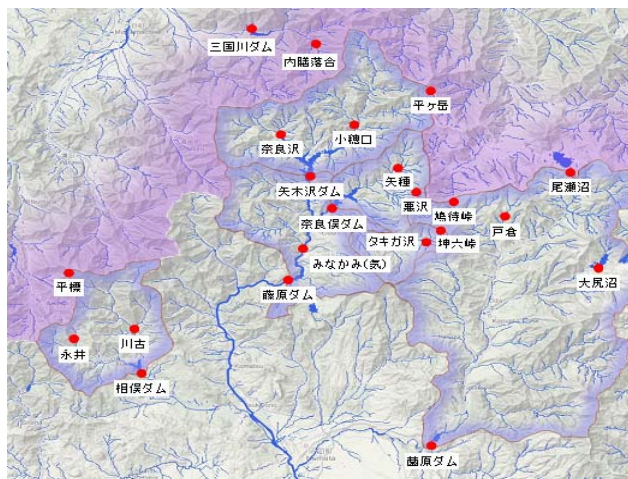
(3) 各観測所の積雪深の状況

オリ根流域の降雪は、ほぼ平年並みでしたが、早い融雪となっています。

標高の低い観測所では、消雪箇所が多くなっており、平年をやや下回る積雪深となっております。

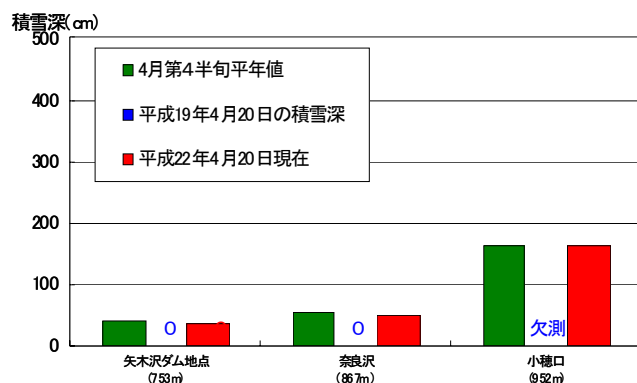
(図－3、図－4 参照)

図－3 積雪観測所位置図

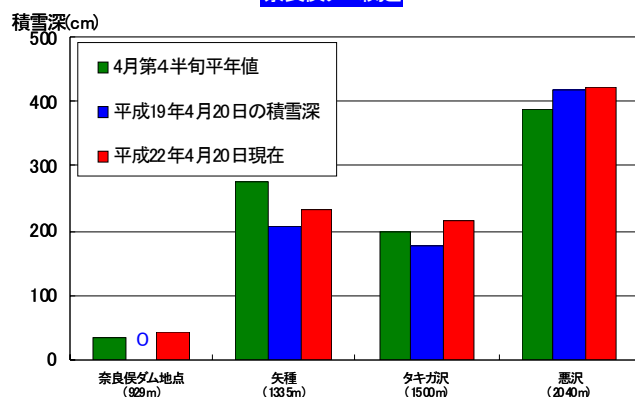


図－4 各観測所の積雪深状況

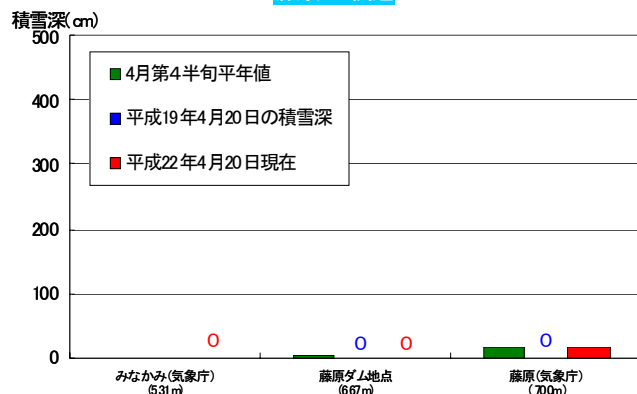
矢木沢ダム関連



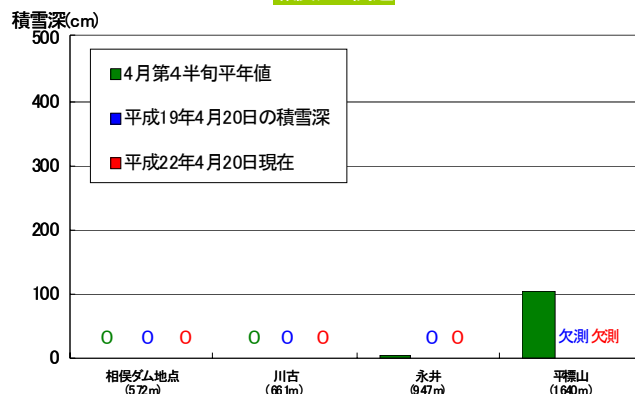
奈良保ダム関連



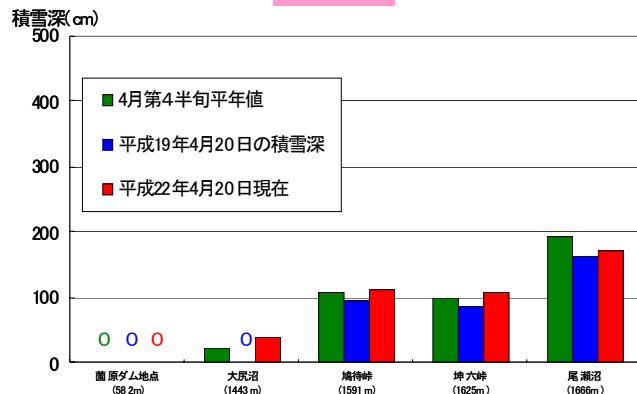
藤原ダム関連



相模ダム関連



藤原ダム関連



平成22年4月20日現在

(4) 利根川上流ダム群の貯水状況

平成21年の利根川上流ダム群は、暖冬のため平年より約1.5ヶ月も早く2月上旬から融雪が始まり、貯水量の回復に努めた結果、4月16日に6ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、藺原、草木）は満水となりました。その後は、5～6月の少雨の影響から補給が続き、6月13日には8ダムで夏期制限容量を下回り、渇水となった平成8年と同様に貯水容量が減少しました。

7～8月は断続的な降雨によりほぼ平年並の貯水量を維持してきましたが、9月の記録的な少雨により補給となり貯水量が低下しました。10月に入り台風18号の降雨により貯水量が回復し、その後貯留に努めた結果12月下旬には平年値を上回る貯水量となりました。

平成22年に入り、貯水量はほぼ平年並を維持しておりましたが、2月下旬以降気温の高い日が続いたことにより、一部融雪が始まったことから下流の河川流量を確保しつつ、貯水量の回復に努めた結果、4月16日に6ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、藺原、草木）は満水となりました。

平成22年4月20日0時現在の貯水量は、4億3,407万 m^3 （常時満水容量4億6,163万 m^3 に対して94%、平年の貯水量3億4,155万 m^3 に対して127%）と、平年を上回っています。

（表－3、図－5参照）

表－3 利根川上流8ダム貯水量

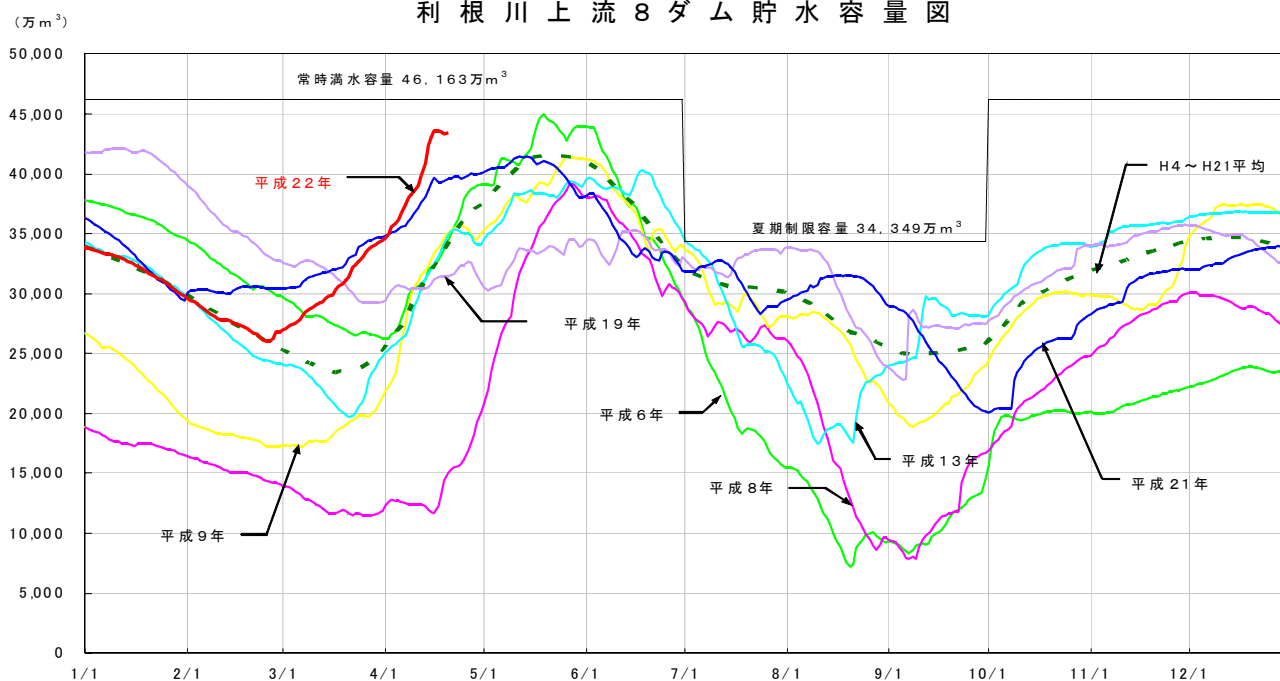
平成22年4月20日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
矢木沢ダム	11,550	11,368	98	14	155
奈良俣ダム	8,500	8,421	99	－8	126
藤原ダム	3,101	2,874	93	32	132
相俣ダム	2,000	1,900	95	9	109
藺原ダム	1,322	1,182	89	31	122
下久保ダム	12,000	11,244	94	－57	128
草木ダム	5,050	4,915	97	－25	109
渡良瀬貯水池	2,640	1,503	57	－87	78
8ダム合計	46,163	43,407	94	－91	127

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図－5

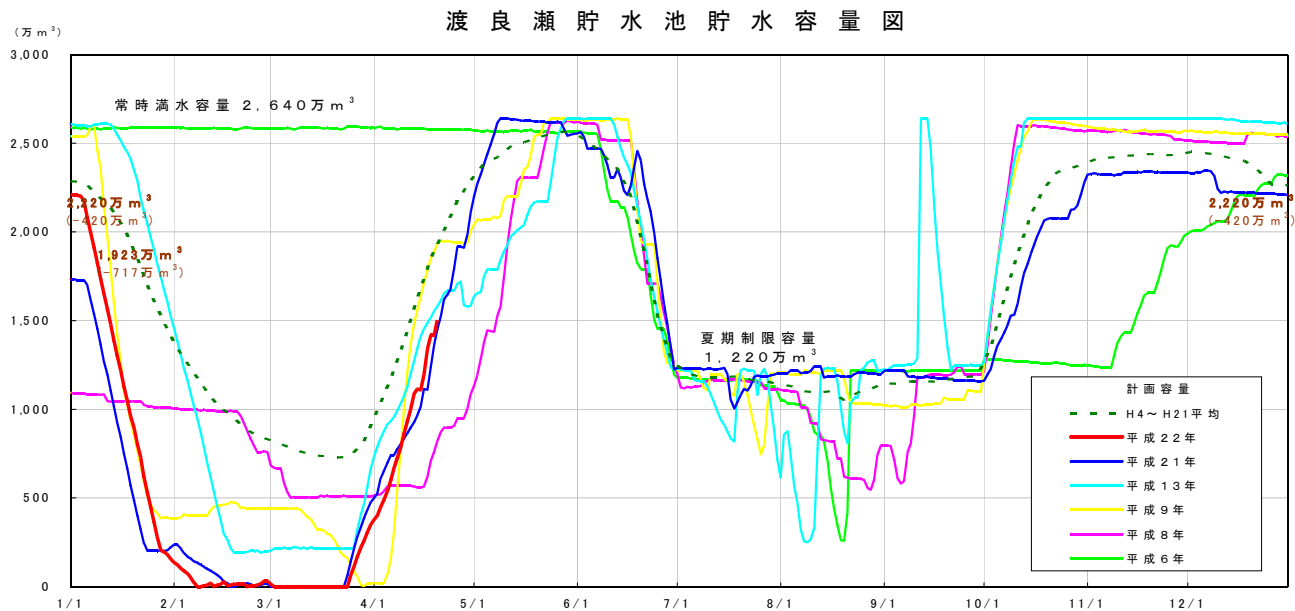
利根川上流8ダム貯水容量図



(5) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善等のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。今年も1月4日より補給も兼ねつつ水位を下げ干し上げを実施しました。平成22年4月20日0時現在の貯水量は、1,503万 m^3 、常時満水容量2,640万 m^3 に対して57%、平年の貯水量1,927万 m^3 に対して78%と平年を下回っています。(図-6参照)

図-6



2) 鬼怒川水系

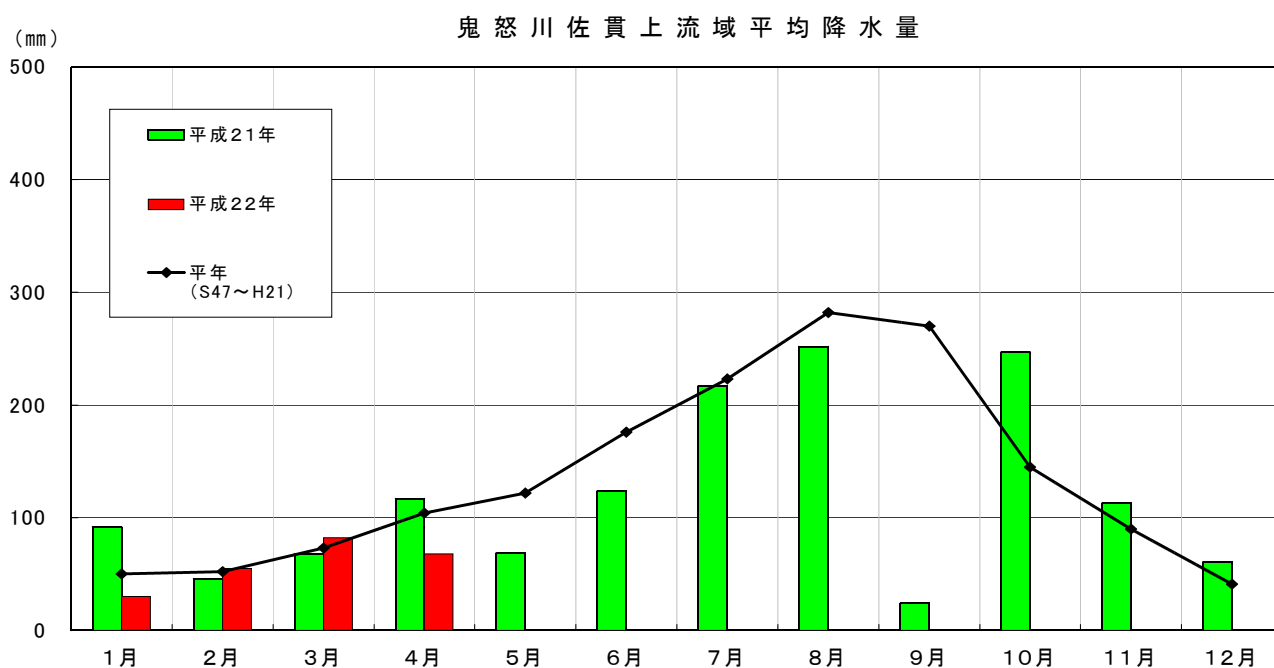
(1) 降水量

平成21年の鬼怒川佐貫上流域平均降水量は、1月は月間降水量が92mm（平年48mm）で統計期間（S47～H20）で4番目に多い降水量でしたが、5月は統計期間で5番目、9月は最も少ない降水量でした。10～12月は平年を上回りましたが、年間降水量は1,430mmで平年より少ない降水量となりました。

平成22年は、1月は平年を下回りましたが、2月、3月はほぼ平年並となっています。1月から3月の累加降水量は167mm（平年1月～3月までの累加175mm）と平年の約95%となっています。

4月の月降水量は、19日までに68mmとなっています。（図－7、表－4参照）

図－7



表－4 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980
平成21年	92	46	68	117	69	124	217	252	24	247	113	61	1,430
平年 (S47-H21)	50	52	73	104	122	176	223	282	270	145	90	41	1,628
平成22年	30	55	82	68									235
平年比 (%)	60	106	112	65									14

平成22年4月19日まで

※. 鬼怒川佐貫上流域面積 940km²

(2) 鬼怒川上流ダム群の貯水状況

平成21年の鬼怒川上流3ダムの貯水量は、1～3月まではほぼ平年並みの貯水量で推移しましたが、5～6月の少雨に伴い補給が続き、7月24日の貯水量は約6,820万m³まで低下しました。その後の降雨により、貯水量の回復に努めた結果8月中旬にはほぼ平年並まで回復しました。

平成22年に入ってから、1月の降水量は少なかったものの2～3月は平年並だったため、貯水量の回復に努めました。

平成22年4月20日0時現在の貯水量は、1億6,364万m³（常時満水容量1億8,034万m³に対して91%、平年の貯水量1億5,918万m³に対して103%）と、平年を上回っています。

（表－5、図－8参照）

表－5

鬼怒川上流3ダム貯水量

平成22年4月20日0時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)	平年比 (%)	適用
五十里ダム	3,123	2,791	89	19	100	
川俣ダム	7,311	7,166	98	1	100	
川治ダム	7,600	6,407	84	－18	107	
3ダム合計	18,034	16,364	91	2	103	

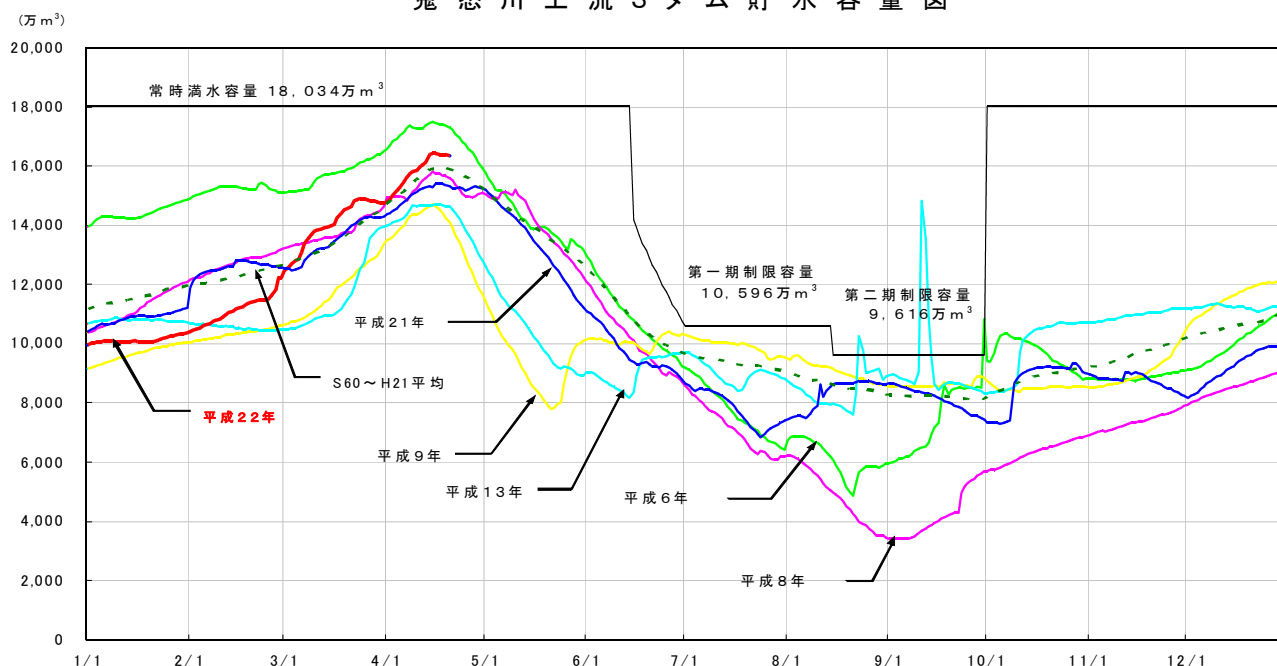
1. 有効容量は、常時満水容量。

2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。

3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図－8

鬼怒川上流3ダム貯水容量図



3) 荒川水系

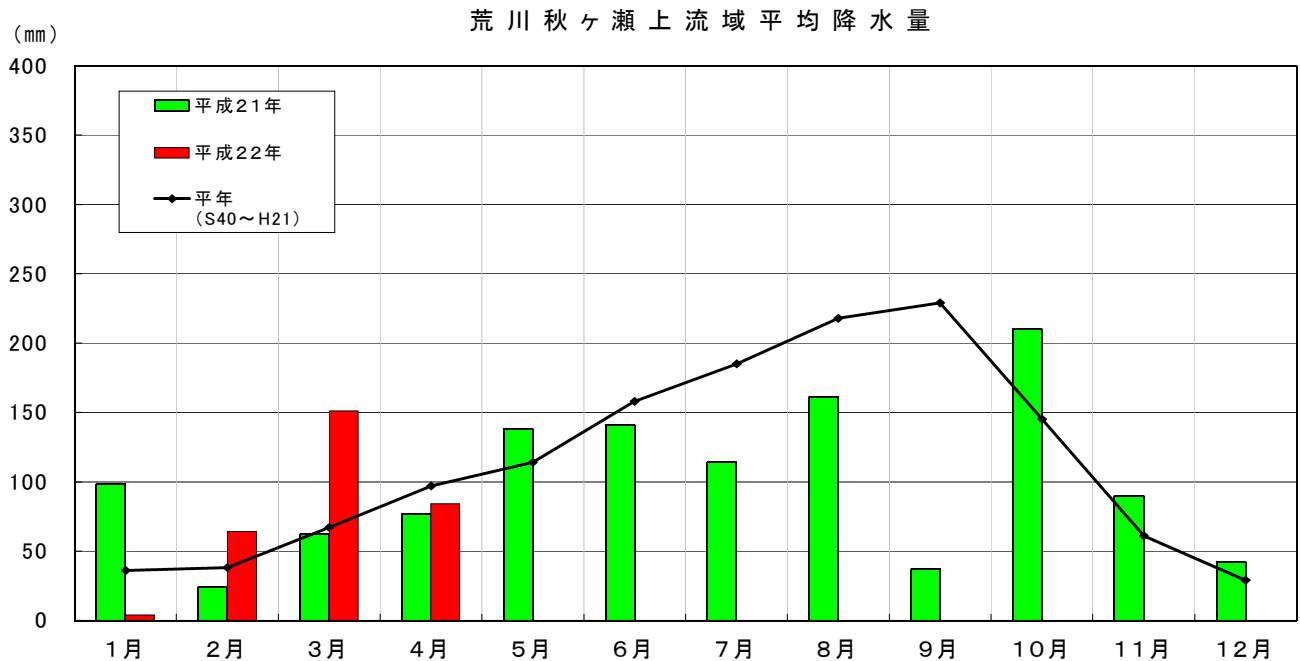
(1) 降水量

平成21年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、1月・5月・10～12月で平年値を上回ったものの、その他の期間で平年値を下回り特に9月は37mmとなり、統計期間（S40～H20）で一番少ない状況となっています。

平成22年は、1月の月降水量は4mmと平年を大きく下回り、統計期間で6番目に少ない記録となりました。2～3月は平年を上回り、それぞれ64mm、151mmとなりました。1月から3月の累加降水量は219mm（平年1月～3月までの累加141mm）と平年の約155%となっています。

4月の月降水量は、19日までで84mmとなっています。（図－9、表－6参照）

図－9



表－6 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657
平成21年	98	24	62	77	138	141	114	161	37	210	90	42	1,194
平年 (S40～H21)	36	38	67	97	114	158	185	218	229	145	61	29	1,377
平成22年	4	64	151	84									303
平年比 (%)	11	168	225	87									22

平成22年4月19日まで

※. 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km²

(2) 荒川ダム群の貯水状況

平成21年の荒川3ダムは、2月の少雨の影響で貯水量は平年を下回っていましたが、3月よりほぼ平年並の貯水量で推移しました。少雨の影響により8月中旬から9月末まで下流部の水利用に対して継続的な補給を行ったため、9月30日には貯水量が2,802万m³(3ダム)まで低下し、3ダムとなった平成12年以降最低となりました。その後まとまった降雨もあり徐々に貯水量は回復し、12月にはほぼ平年並まで回復しています。

平成22年に入り、3月の降水量が平年を大きく上回ったことから貯水量の回復に努め、平成22年4月20日9時現在の貯水量は、7,307万m³(常時満水容量14,420万m³に対して51%、平年の貯水量6,612万m³に対して111%)と平年を上回っています。

(表-7、図-10、11参照)

表-7 荒川4ダム貯水量

平成22年4月20日9時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,730	87	-6	118
滝沢ダム	5,800	1,210	21	-1	—
浦山ダム	5,600	3,347	60	-17	80
荒川貯水池	1,020	1,020	100	0	105
4ダム合計	14,420	7,307	51	-24	111

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)
4. 平年比は、過去の平均貯水量に対する割合。4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合。

図-10

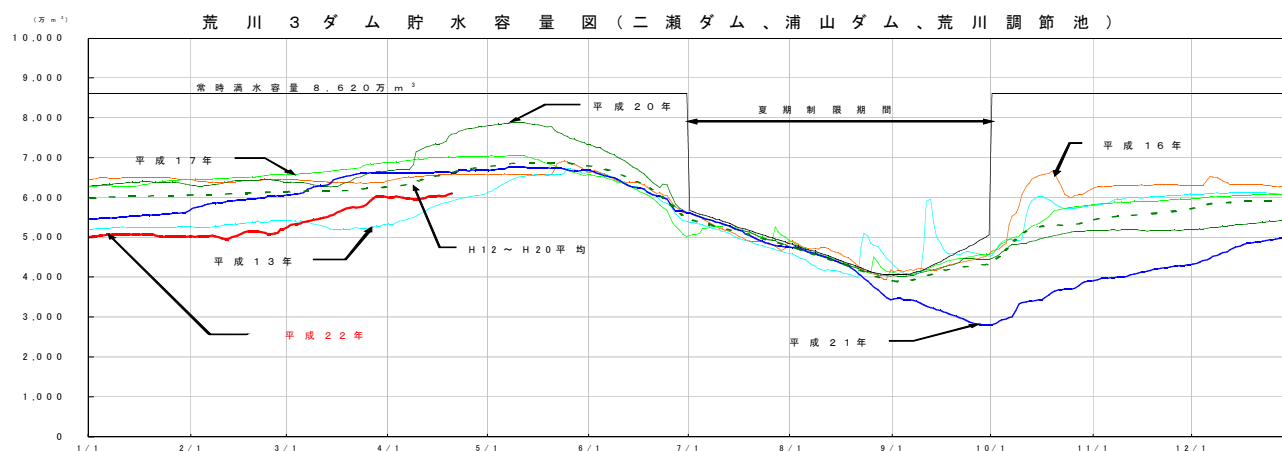
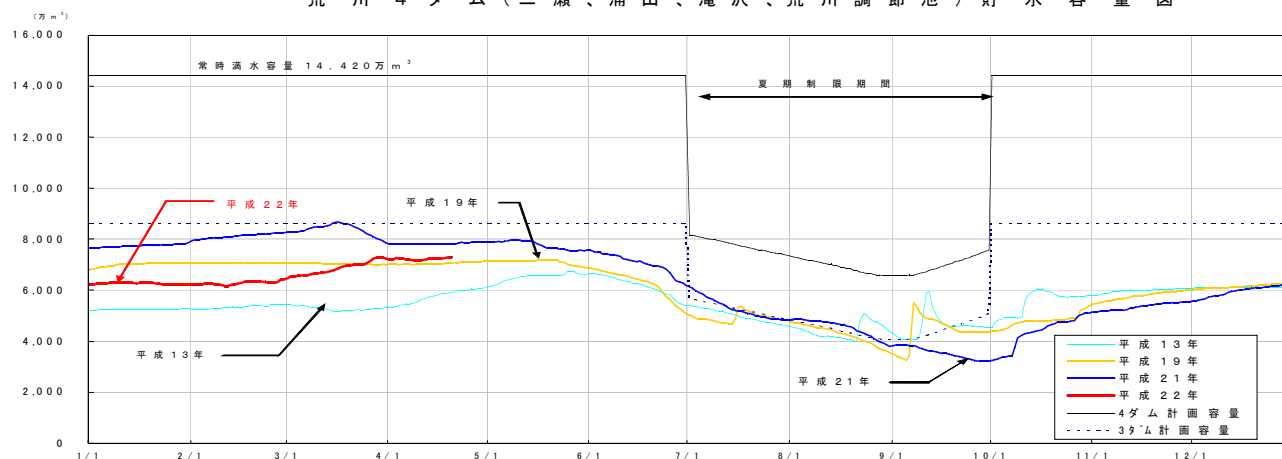


図-11

荒川4ダム(二瀬、浦山、滝沢、荒川調節池)貯水容量図



4) 多摩川水系

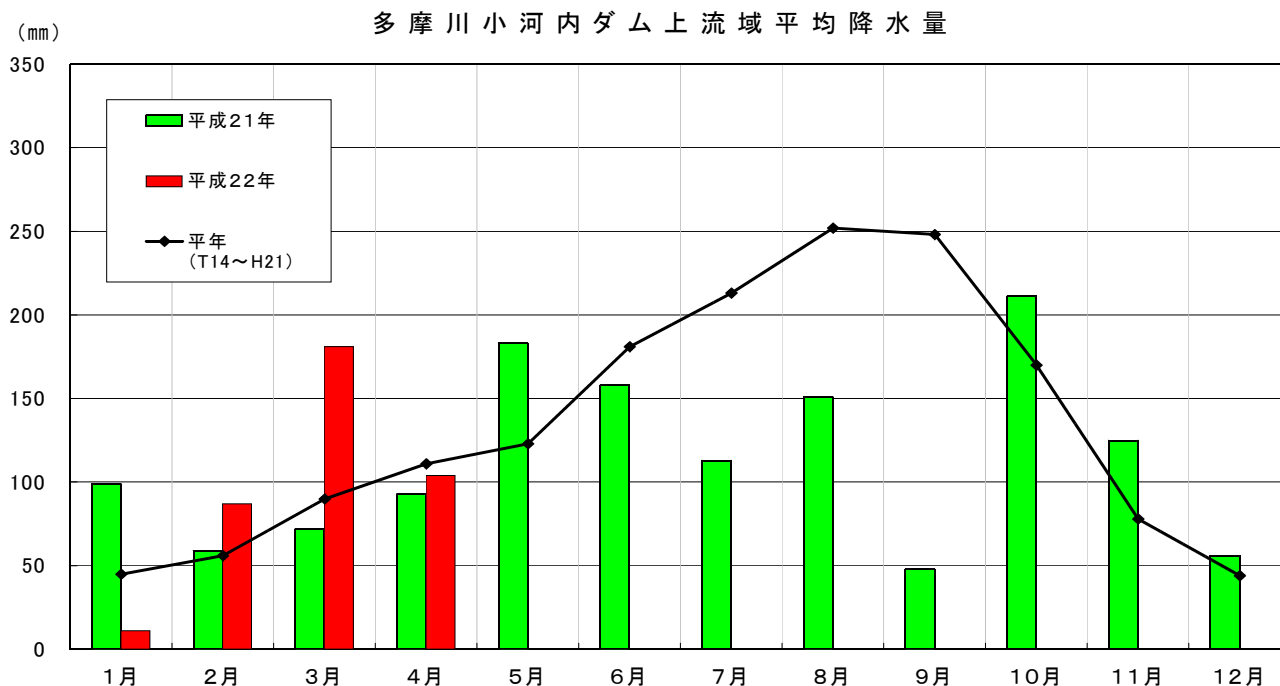
(1) 降水量

平成21年の小河内ダム上流域の降水量は、年間の降水量は1,369mmとなっています。

平成22年に入ると、1月の月降水量は11mmと平年を大きく下回りました。2～3月は平年を上回り、それぞれ87mm、181mmとなりました。1月から3月の累加降水量は280mm（平年1月～3月までの累加191mm）と平年の約146%となっています。

4月の月降水量は、19日までで104mmとなっています。（図－12、表－8参照）

図－12



表－8 多摩川小河内ダム上流域降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成21年	99	59	72	93	183	158	113	151	48	211	125	56	1,369
平年 (T14－H21)	45	56	90	111	123	181	213	252	248	170	78	44	1,611
平成22年	11	87	181	104									384
平年比 (%)	24	156	202	94									

平成22年4月19日まで

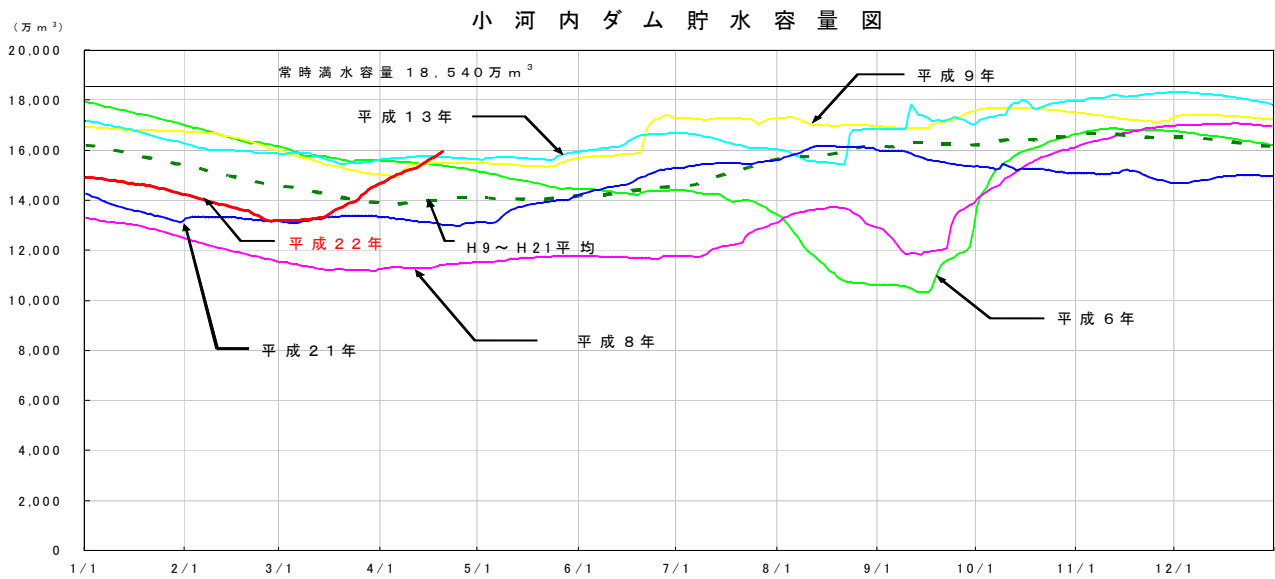
※. 端数処理の関係で、各月の和と合計値は一致しないことがあります。

※. 小河内上流域面積 262km²

(2) 小河内ダムの貯水状況

4月20日7時現在の貯水量は、1億5,952万 m^3 、貯水率86%、平年比114%と平年を上回っています。(図-13参照)

図-13



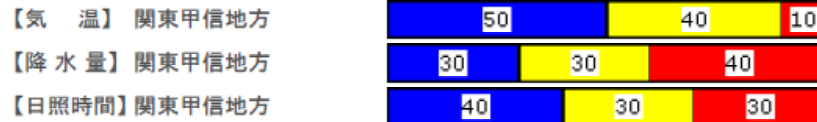
2. 今後の見通し及び対策（案）

（１）見通し

- ①. 平成22年4月16日発表の気象庁の1か月予報によると、4月17日から5月16日の関東甲信地方の降水量については、「多い」となっており、3月25日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、5月「平年並」、6月は「少ない」となっています。

1か月予報（平成22年4月16日発表）

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報（平成22年3月25日発表）

【降水量】

〔関東甲信地方〕



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 利根川上流5ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、蕨原）は、毎年4月から5月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では5月の中旬にほぼ満水となります。今年は2月下旬からの暖冬の影響により6ダム（5ダム＋草木）では4月16日に満水になりましたが、今後融雪による流況改善が長く続かないことも考えられます。
- また、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。
- ③. 鬼怒川上流3ダムの貯水量は平年を若干上回る貯水量となっており、今後下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきませんが、降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

（２）対 策（案）

① [利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保]

今後、本年の利根川上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

また、上流ダム群の貯水量の状況や積雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

② [利根川水系渇水対策連絡協議会の取り組み]

利根川渇水対策連絡協議会としては、首都圏の水需要をかんがみ、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位について

H22. 4月時点

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間											
				平成22年								平成23年			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利根川上流ダム群	藤原ダム	クレストゲート開度計更新	開度計の計測値に誤差が発生しているため、開度計（3門）の更新を行う。							9月上旬		11月下旬			
		制限貯水位 EL637.0m 制限期間 平成22年10月1日から平成22年11月30日													
	相模ダム	クレストゲート予備ゲート設置工事 他	夏期制限期間中にもクレストゲート点検を可能にするため、予備ゲートを設置する。							9月上旬					2月下旬
		制限貯水位 EL550.0m 制限期間 平成22年10月1日から平成23年2月28日													
	蕨原ダム	H21 蕨原ダム湖岸環境整備工事	湖面利用促進や適切な湖面利用を図るため、環境整備を行う。								10月上旬			1月下旬	
制限貯水位 EL547.0m 制限期間 平成22年10月1日から平成23年1月31日															
下久保ダム管理所	下久保ダム	表面取水設備整備工事 他	経年劣化に伴う分解整備及び部品交換を行う。							10月上旬				2月上旬	
		制限貯水位 EL270.50m 制限期間 平成22年10月1日から平成23年2月9日													
利根川上流	渡良瀬遊水池	貯水池流入堤補修工事 干し上げ	経年劣化による亀裂を補修するため、流入堤補修工事を実施する。 水質環境改善のため、「干し上げ」を実施する。												
		【流入堤補修】 制限貯水位 YP+14.0m 制限期間 平成22年11月1日から平成23年3月31日 【干し上げ】 制限貯水位 YP+8.5m（最低水位） 制限期間 2月上旬～3月下旬（約40日間）													
鬼怒川上流ダム群	川治ダム	堆砂除去工事	容量確保のため、貯水池内に堆積した土砂の掘削工事（湯西川ダム工事に使用）を実施する。							9/1		10/31			
		制限貯水位 EL590.0m 制限期間 平成22年9月1日から平成22年10月31日													
	五十里ダム	堆砂除去工事	容量確保のため、貯水池内に堆積した土砂の掘削工事を実施する。							10/1		11/30			
		制限貯水位 EL570.0m 制限期間 平成22年10月1日から平成22年11月30日													
	川俣ダム	クレストゲート改修工事	放流設備更新のため、台船発着場設置及びクレストゲート改修を実施する。							10/1					
制限貯水位 EL965.0m～970.0m 制限期間 平成22年10月1日から平成24年9月30日															